

大阪市

口利き情報公開対象に

11.2.14 読者(9)
- (画)

議員や 業界団体 本人事前チエツク

新制度は、市議会の議決する要綱として制定、4月1日
必要な条例ではなく、市日から実施する。
の内部決裁だけで新設でき、市政に対して寄せられた
要請や要請、提言については口頭、電話にかかわらず
全案件を記録し、個人情報

に配慮したうえで、情報公開請求にも応じる。
記録化の対象とする要請者は市議のほか、国会議員や業界団体などから市民団体、住民個人にまで広げ、議員に限らず、あらゆる方面の不当な要求から職員を守る効果を期待している。
しかし、問い合わせや照会などに関しては、記録対象から除外。例えば「この市道を補修してほしい」と求めれば記録されるが、「この市道を補修するかどうか知りたい」と照会する形なら記録化されない余地がある。また「職員に勝手な記録をされたままらな」といった議員らの反発に配慮して、職員が記録した内容を要請者が確認する規定を設けている。
このため、口利きがより巧妙化したり、運用次第で制度が骨抜きにされたりする可能性もある。

自治体と議員のなれ合いの温床とされてきた不透明な「口利き」行為を防ぐため、大阪府は新年度から、職員が議員らから受けた要請や要請、提言をすべて公文書として記録することを義務づける制度案をまとめた。情報公開の対象にするとしてもホームページなどで概要を公表し、市政運営の透明性を高める。ただ、記録内容は議員ら要請者自身が確認するうえ、単なる「問い合わせ」の場合は記録対象外としており、実効性を疑問視する声もあがりそうだ。

実効性に疑問も

市は昨年12月に公表した「一年1月になって、大平光代市長マニフェスト」案の弁護士が昨年10月に市助中で、市民の信頼の回復にむけた「コンプライアンス(法令順守)改革」の一環として「口利き」記録化を盛り込んだ。さらに今上した。

内部告発奨励

大阪市が条例

2.23 不祥事続き、政令市で初
06. 職員厚遇問題など相次いで不祥事が発覚した大阪府は二十二日、内部告発を扱う公益通報制度を盛り込んだ「職員等の公正な職務の執行の確保に関する条例」案を市議会運営委員会に提出した。

市によると、二〇〇六年度の施行を目指す。公益通報制度を条例化するのには、政令市で初めてという。昨年十一月の市長選で、関淳一市長が制度導入を公約の一つに挙げていた。

市職員や市事業の委託先のほか、市の内外を問わず誰でも通報ができ、匿名も受け付ける。不法

行為や、法律違反には当然判断される行為も対象になる。

通報があった場合、弁護士ら外部の三人でつくる委員会が調査の必要性

を判断し、市の担当局が調査。結果や是正措置の妥当性を再度、委員会が判断するという。

関市長は外部委員のうち一人は市の互助連合会

長の辻公雄弁護士を起用する意向を示した。威圧的な言動で不当な要求を受けた場合は、職員に報告と内容の記録を義務付け、警察への協力要請などの対応も盛り込んだ。



「すべては次の選挙のため」

「口利きといふより、になるわ」

お世話行為を思っている。

なせするかって？ 選挙

があるからに決まってる

わろ。やらないと次の選

挙は通らない。議員はだ

れだって「頼りない人」

だと思われたくないもん

や」。大阪府内のペテラ

ン市議はそう語った。

この議員がよく頼まれ

るのは保育所の入所や生

活保護の受給申請。結果

はケース・バイ・ケース

というが、「世話をした

このある人や家族の葬

式に行っ、別の市議と

バッティングするとい

気はしない。「この家で

は本当はだれに投票して

るんやろ」って疑心暗鬼

この議員によれば、最

も困るのが、有権者の間

で「あの議員に頼んだら

あかんか」たけど、別の

議員は「やめてくれた」

というわけが立派だ。

だから、役所に要請

する際は「本当に、絶対

にできないことなのか」

というが、「所得や障害

証言。「交通違反のみ

ではあずかり知らぬと

して落選した」

別の市議は「市議選な

んて投票率も低いし、千

だが、「紹介された業者を考えれば個人よりも集の口利きが入る余地が増に担当者が会う」は票力のある団体に恩を売ってしまつた」と指摘し「〇」のことも。あるったほうが手取り早上上で、興味深い話を教自治体幹部は「例えば、川を簡単に浄化できるというような特殊な技術を持つ業者がいると紹介された業者は、ビジネスライクに話を聞く。議員は何れにも負けないと思っただけで、その団体の言うことを聞かなかったのだから、結果はそれほど

保育所「〇」公営住宅は「△」

と執拗に念押ししてしまの有無などで本来、優先消しはやはり「X」か言いようがない。的に入居できた人まで、のよつた。意外だったのが、「市職員の採用」。もちろん「裏口」を認めているのは一朝一夕には改善されはしないが、「採用試験の合格を先に教える程動を任事を中心に置いてない方法はあるのか。大阪府北部の自治体幹部は「役所内の仕事は細分化され、市民の相談が

特定の市民の利益のためだけに議員が奔走する。今そんな「口利き」は、どの程度、効果があるのだろうか。大阪府内

「府南部の自治体職員のため真相は不明だ。自治体に近い保育所へ入札予定価格大阪府南部の元市議の証言。「選挙に勝つこと

大阪府南部の元市議の証言。「選挙に勝つこと

大阪府南部の元市議の証言。「選挙に勝つこと

大阪府南部の元市議の証言。「選挙に勝つこと

産経新聞大阪社会部にてつを
は議員の「口利き」の意見
募集してはいます。news@
sankei-net.co.jp
FAX 06・6633・1940
(電話番号明記)

疑念招くダンマリ

本紙アンケート

18.3.2 産経



開会した大阪市議会。「口利き」に関するアンケートには8割以上の市議員が答えなかった―
日午後2時15分

「個人で答えるな」

自民「党議拘束」の迷走

「口利きの現場」

議員の「仕事」とは

「個別に答えるつもりは議員は多かったと聞く」。大阪市議の6割以上を占める自民、民主の両会派。

が事実上回答を拒否した本紙の「口利き」をめぐるアンケート。ある自民市議員は、議員団から「個人では回答しないでほしい」と、党議拘束があったとを明らかにした。昨年12月に辞任した平光代元助役の発言を機にクローズアップされた「口利き問題」。

「つまり、いかなければ、回答もいかに何の問題もないはず」。議員もあきれ顔だ。(一面参照)

関係者によれば、自民会派は先月初旬、アンケートについて「個人では回答しない」「会派として統一見解を検討する」ことを議員団総会で決定。二十日にも総会を開いて見解の中身を議論したが、結局まとまらなかったという。

会派の幹部は取材に対し、最初の回答締め切りから半月以上たった今月一日になって「検討中」「を繰り返すばかり。」「また改めて」とを指し示した市議員も「自分ではない」と話すが、迷走が自派の幹部の不感実ともいえる対応に、ある自民市議員は、実際には会派の三分の一の割合は答えようと思っていたは

大阪市議のみならず、これほど混乱するとは思わなかった。彼らは「口利き」という言葉が出ただけで過剰ともいえる反応を示し、「この問題が最も懸念されたくない。タブー、口利きの問題が最も懸念してました」。

「口利きの定義が明確でないで答えられない。」「複数の市議員からはそんな声もあがり、回答用紙にそう書いて送り返してきた市議員もいた。だが、このアンケートでは、市議員の間で「あなたが考える口利きとは何か」「口利き」と分けて書いてもよい欄を設けたのだ。

社会部発

過剰反応「タブー」を露呈

そこには何を言わす、個人や団体の利益のためには行政に不当な要求をする。入札妨害など聞いたこともないかのような態度に終始する。一方、きつんと設問に答えていた共産系派の市議員は、おおむね次のよう

「悪い口利き」…道路や危険な場所の改善など多数の市民のプラスになる要請。高齢者など社会的弱者が行政の複雑な手続きをスムーズにするため、悪い口利き…特定

「悪い口利き」…特定大阪市では四月をめ

「悪い口利き」…特定大阪市では四月をめ

「悪い口利き」…特定大阪市では四月をめ

「悪い口利き」…特定大阪市では四月をめ

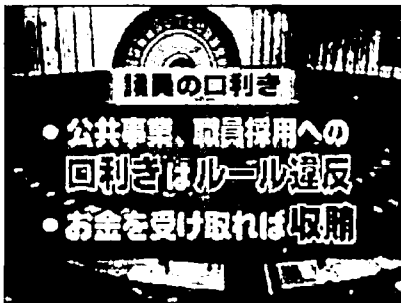
「悪い口利き」…特定大阪市では四月をめ

「悪い口利き」…特定大阪市では四月をめ

「時流」議員の「口利き」大論争

公共事業や公務員への採用など、議員の口利きに絡む汚職事件は後を絶たない。こうした行政への不当な介入を防ぐため、口利きを記録して公開する自治体が増えている。そして、あの大阪市も市政改革の一環として、口利きの記録を改革マニフェストに盛り込んだ。しかし、市議会では議論が噴出。口利きの公開は実現するのか？実現すれば何が変わるのか？実例を元に検証します。

■是か非か、議員の口利き



保坂「行政担当の木原記者に聞きます。『口利き』というと、何か悪いイメージがありますね」
 木原「あまりにも事件が多いので、議員の口利きは全て悪いように思えてしまいます。ですが、良い口利きもあります。まずは悪い例ですが、公共事業や職員採用の口利きは、それ自体が法やモラルに反しているし、お金を受け取れば収賄です」

木原「例えば、老人ホームに『自分の支持者を優先的に入れろ』というの個人利益を図っているのが悪い口利きです。これが、『この地域には老人ホームが足りないから、もっと建設すべきだ』というなら、これは建設的な口利き。提言と言い換えてもいいかもしれません」



木原「こうした口利きを記録して、公開する自治体が増えています。その結果どうなったかを取材しました」



鳥取県では、全国に先駆けて4年前から口利きの公開を始めた。改革派で知られる片山知事の発案だ。
 【鳥取県 片山善博知事】
 「良い口利きだったら、みんなの前で堂々と言えるはずですが。悪い口利きは、コソコソとしかできない。やましい口利きは、自ずからなくなります。言いにくいですから。良い口利きはどんどん議場でやるようになる。したがって、鳥取県では議会の議論が活発になりました」

しかし、当初、議会は猛反発した。保守系最大派の会長は、当時の様子をこう語る。
 【保守系最大派会長 石黒 豊県議】
 「『口利きこそが議員の役目』という旧来の考えがあった。公表されるとやばいから、抵抗もあった」